

「ゆっくりズムのまち桐生」 家庭の脱炭素“わが家からの第一歩”



市では、環境先進都市の実現を目指し、2050年（令和32年）までにカーボンニュートラル※¹を達成することを目標としています。

そのような中、家庭でも温室効果ガスの削減に取り組んでもらうため、モデルとなる家庭を募集し、

脱炭素に取り組んでもらいました。

※¹二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林・森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

家庭から排出される二酸化炭素排出量は?

国立環境研究所の温室効果ガスインベントリオフィスが行った令和5年度の調査によると、地球温暖化の原因の一つといわれる二酸化炭素の排出量は、全体の約15パーセントが家庭からの排出分で

す。また、1家庭あたりの二酸化炭素の排出量は約3,608キログラムです。これは、スギの木が1年間で吸収する二酸化炭素量で換算すると、約258本分にあたります。

「家庭の脱炭素 “わが家からの第一歩”」を実施しました

令和7年5月に募集したモデル家庭に「うちエコ診断」※²を受診してもらい、診断結果を参考にしながら、7月1日（火）から8月31日（日）までの2か月間、家庭でできる脱炭素に向けた取り組みを行ってもらいました。

※²環境省の認定を受けた「うちエコ診断士」が、各家庭の電気・ガス・水道などの使用状況をチェックして、暮らしに合わせた省エネ対策などをアドバイスする制度。右の二次元コードから簡単な診断ができます。

参加家庭に感想をお聞きしました

Oさん宅

参加動機	温室効果ガス削減に向けて、日常生活でエネルギーの節約にどの程度貢献できるか把握したいと思い、参加しました。
取り組み	・暑さ対策にすぐれを使用する ・生野菜のごみを家庭菜園の肥料にする ・人のいない部屋の電気を消灯する ・1人で外出する際は自動車ではなくバイクで移動する
感想	もっと省エネの意識を強く持ち、小さな省エネ活動を地道に続けていく必要があると感じました。

Tさん宅

参加動機	エコ活動に興味があり参加しました。
取り組み	・買い物に行く際は自転車や徒歩で行く ・シャワーを出したままにしない ・家族同士なるべく同じ部屋で過ごす
感想	思った以上に取り組みを行うことができ、今まで以上に環境について考えるようになりました。

Mさん宅

参加動機	脱炭素の取り組みに興味があり、家庭でできるこの実践を行ってみたいと思い、参加しました。
取り組み	・冷房の設定温度を27度にする ・コンポストを使用して生ごみを処理する ・食品ロスをなくす
感想	家族でたくさんの取り組みを行うことができ、改めて環境や脱炭素について考えるきっかけとなりました。子どもたちも興味を持って取り組んでいました。



◀Oさん宅
バイク



▶Mさん宅
コンポスト



12. つくる責任つかう責任

13. 気候変動に具体的な対策を

ゆっくりズムのまち桐生を実践してみよう

地球温暖化を防止するためには、家庭から排出される二酸化炭素の排出量を減少させることができます。そのためには、私たち一人ひとりが省エネルギーに向けた取り組みを、日々実践していくことが必要です。モデル家庭を参考に、日々の行動を見直し、ゆっくりズムのまち桐生を実践してみましょう。

モデル家庭の取り組み内容の詳細は、右の二次元コードから市ホームページをご覧ください。



問い合わせ=SDGs推進課ゆっくりズムのまち桐生推進担当（☎32-4200）